



療育手帳の向こう側

5.内と外

坂口 伊都

はじめに

前は、養育者の多くが子どものかわいい部分を話したがっていることについて書きました。それは、親御さんと出会う度に感じています。先日も家での様子を伺うと、子どもの行動は意表を突くものばかりだと熱弁するお父さんがいました。

「もう本当にすごいですよ。想像を超えてくることをするから見たら驚きますよ、きっと」

と大変さをアピールしながらも

「もう、慣れましたけどね」

と笑っていました。

日々の驚きや大変さも事実としてありますが、そこを含め子どもの成長を素直に喜び、かわいいことが伝わってきて、聞き手側も自然と笑顔になっていました。

子どものかわいさを感じながら、同時に将来への不安を感じるのも親の性というものです。毎日いっぱい食べて笑顔で過ごしてくれたらそれでいい思いながらも

「宿題はしたの？」

「遊びに行くのは宿題してからと言っているでしょう」

と子どもに言っていないですか。親が宿題や勉強をきなさいと口酸っぱく言っても、子どもはやりたがらないだけでなく、「あーあ、今やろうと思っていたのに言われたからやる気なくした」と可愛げのない

態度で跳ね返されることもあります。宿題親子バトル、嫌になります。療育手帳の聞き取りの場でも宿題の話題が出ます。

【その1】

母 「宿題はしますが、それ以上の勉強を一切しないです」

援助者 「宿題はするのですね。嫌がらずにするのですか？」

母 「いえ、宿題があるだけでイライラして癇癢を起しながらやっています」

援助者 「宿題が終わると癇癢は収まるのですか？」

母 「はい、機嫌が良くなります」

援助者 「宿題やらないということはないのですか？」

母 「根が真面目なので、しないといけないと思っているようです(苦笑)」

【その2】

母 「書き取りプリントの宿題で、マスから少しでもはみ出すとそれが許せなくて全部消してしまうのです。消す力が強くて紙が破れてしまうと、そこから大泣きして本当に大変です」

援助者 「その様子を先生に相談していますか？」

母 「他の子より宿題を減らしてもらっているから言いにくくて」

【その3】

母 「家では癇癢を起して全くしないと先生に話したら学校で宿題をさせるので家でしなくていいですよと言ってもらって、任せています」

どこの家でも苦労していることが伝わってきます。自分を振り返ってみても、押し付けられていると感じたら勉強に身が入らず、そこに意味を見出すと頑張るものです。知的なハンディキャップがあると、同じ学年の子と比べ理解がゆっくりで、できない自分を責めてしまうこともあります。【その1】は、宿題をしていることが頑張りですし、【その2】は、是非先生と相談して、この子ができたと思える内容になることを願います。今回は、家から見えない子どもの外の世界について考えてみようと思います。

好き嫌い

家で宿題をやりたがらない以外にも偏食があって困っている話題がよく出ます。偏食がきついと、白米やパン、麺類しか食べられないと言います。その中でも炊き込みご飯やふりかけがかかると白米でも食べないという子もいれば、逆にふりかけをかけないと食べてくれない子もいて、子どもによって好みが変わります。野菜嫌い、初めて見るものは口にしないという子も多く、野菜は細かく刻んでもその小さな野菜を一つひとつ選り分けていくすご技をやったのける子もいました。

給食では周りの子どもにつられてか、食べようと頑張る子が多いようです。なかなか食べられなければ、最初に減らしてもらっています。そこで「よく給食は食べてくるが、家では絶対に食べない」という母の嘆きを聞き、その理由として

- ① 「私の料理が不味いからかも知れません」
- ② 「家では甘えているのか、全く食べないです」
- ③ 「親の言う事なんか聞かなくて困っています」

と3パターンで語られます。

- ① は冗談で言う方や自信をなくしている方もいます。
- ② は子どもの甘えを仕方がないですねと諦めモード。
- ③ は怒りと悲しみの両方の感情がこもっているように感じる
ことが多いです。



どれにしても親が作った料理を食べてもらえないのは、悲しい出来事です。親は、身体のために何でも美味しいと食べて欲しいと願います。「給食は食べてくるけど家では食べないという話される親御さんは多いですよ」と伝えると、「そうなのですか」とホッとした顔をされます。

給食をほとんど食べられない子もいます。味覚や触感に対して過敏に感じると、受け付けるものが偏りやすくなり、こちらが美味しいと思っても全く受け付けられない味ということもあります。不味いものを美味しいと言われても食べられません。

給食は食べると褒められますし、他の子どもの手前頑張っているのでしょう。子どもにとって保育園や学校は頑張る場所で給食にチャレンジし、食べられたという自信をつけているようで、家でも食べられるものが増えたという喜びの声も耳にします。

勉強も食事も外の世界だと気合を入れてチャレンジしているのですね。

保育園や学校と家

保育園や学校での様子を尋ねると
「学校ではいい子なのですが、家では暴れることが多くって」
「家では問題ないのですが、学校では全体の指示が入らない、集中力もないと言われて」

と、保育園や学校と家での子どもの様子が真逆になっていると聞くことが、たまにあります。どちら

のパターンでも親御さんの戸惑いは大きく、先生と子どものイメージを共有できず心細い思いをしています。

「家では、癇癢を起して大変だと何度説明しても信じてもらえなくて、動画を撮って見てもらったらやうと信じてもらえました」

「家では問題なく過ごしているのに学校だとあれもこれもできないと言われ、本当にそんなにできないのかと落ち込みます」

子どもが見せる行動が保育園や学校と家で正反対に出ていると気になります。その両極端の行動で、体力を一番使っているのはその子自身だからです。

それでは、子どもに何が起きていると考えられるでしょうか。

- ① 音に敏感で教室の音がうるさくて気になって仕方がない
- ② やっていることを中断させられて、嫌なことをしろと言われる
- ③ 周りの言っていることがわからない
- ④ 自分なりにやっているのに叱られる

①は給食の時にも触れましたが、感覚過敏を持っていると子どもの騒ぎ声やざわざわした音がとても大きく聞こえ、特に休み時間には叫び声も交じり教室にいること自体が辛くなります。

②は、誰でも好きなことには夢中になれるますが、気乗りしないことに向き合えない経験があります。その度合いが強くなり、食事をするのも忘れてしまうほど集中することを過集中と呼びます。切り替えが難しく、次の日課になかなか移れず苦勞している話もよく聞きます。



③は、写真や絵などで説明されるとわかる、短い文章に区切られればわかる、やることを一つに言及してもらえればわかるというように、伝え方によってその子の理解度が変わります。私たちも話をしている、この人は何を言っているのかわからないまま聞いていることが日々起きていますし、周りはわかっているのに自分だけわかっていないのではないかと感じると焦ります。周りに聞きやすい人がいればいいですが、知らない人ばかりだとわからないままになってしまい、困ってしまいます。

④は行動の結果ですが、①～③は子どもの特性から起きていることで、子どもの努力で何とかなるという種類のものではありません。その子なりに立ち回ろうとしているのに叱られてしまうのは理不尽です。そして、面白くないし、自

信を失っていきます。また、年齢が低いほどそれらの行動は顕著に出やすいようです。失敗することや注意を受けることを頑なに拒否する子どもに出会うと、この子はこれまでにどのような体験をしてきたのだろうかと考えてしまいます。

溜まったストレスをどこかで発散しないといられなくなっている状態だとしたら、そのストレス緩和をまず考えるべきでしょう。

そして、そのストレスを発散している時、子どもは自分の気持ちを落ち着けて欲しいと懇願しています。しかし、パニック状態になっていると周りは困惑します。これ以上痼癪がひどくならないように大人がおどおどした態度で接すると、子どものイライラを煽る結果に陥ります。あなたが慰めて欲しい時、相手がおどおどしていたら、あるいは大したことではないと鼻であしらわれたと感じたら、余計に傷つきませんか。私なら、大丈夫だよとおおらかに受け止めてもらいたいです。

小さい頃は上から押さえつけられ、身体が大きくなると恐れられると子どもは途方に暮れます。親御さんの中に子どもの行動がひどくて困っている、私は精一杯やっているから悪くないということを無意識に訴えている方がいます。この親御さんは、いっぱい傷ついて疲れているのでしょう。子どもを大らかに受け止めるためにまずは傷を癒していただきたいと思っています。

子どもは、保育園や学校と家と気持ちを使い分けていないと思っている大人は多いです。子どもが意識的にしているわけではなくても、先生や子どもが大勢いる場所と自分のテリトリーである家にいる時は気持ちのあり様が違います。甘やかして大丈夫ですか？という質問を受けますが、その時の甘えのイメージはその方によって様々です。その子の特性に配慮した環境を考える、休む時間を作る等は必要です。それでは、ここは譲れないと思うことは何でしょうか。その部分を保育園や学校、家で共有し子どもに根気強く教えていくことが子どもの成長を促します。子どもの見えにくい頑張りをみつけられると皆が笑顔になれると感じています。

